



沖縄キリスト教学院大学
沖縄キリスト教短期大学

学 報

第 62 号

対
談

◎学長に聞く

これからの 沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学 － 受け継がれる建学の精神 －



CONTENTS

理事長メッセージ	02
キリスト教・平和活動	03
学長対談	04
学生の活躍	06
大学・短期大学トピックス	08
大学・短期大学共催	10
学内行事	11
ご卒業おめでとうございます	12
キャリア支援	13
国際交流活動	14
学生支援	15

2015 年度主な図書館行事	16
退職教員メッセージ	17
採用教員メッセージ	17
研究助成費獲得による研究活動	18
同窓会・後援会	18
寄付感謝報告	19
2015 年度人事	19
2014 年度決算報告	19
Open Campus 2016	20
大学見学	20

2015 年度
キリスト教活動年間テーマ

キリストの平和と真理のうちに生きる
－ Living within Christ's peace and truth －

過ぎ行く年と新しい年を迎えて



学校法人 沖縄キリスト教学院
理事長 神山 繁實

2016 年という新しい年を迎えました。「学校教育の基本線をどこに置くのか」この問いは古くて、新しい問いであると思います。この古いという意味は、歴史の重みがあるという意味で古いのですが、絶えず新たに問い直し、新たな理解を積み重ねていくという意味で新しい、といわれるのでしょう。

沖縄キリスト教学院が設立されたのは、1957 年ですから、今年は創立 59 年になります。59 年というと、約 2 世代目の終わりに位置しますが、来年から 3 世代目の始めに相当する時期を迎えることになります。しかしいくら年月を重ねても戦中戦後に受けた表現しがたい苦痛は、人生の終盤を迎える年になっても引きずり続けるようです。

蟻塚亮二精神科医は、沖縄に精神疾患が多いのは、戦争トラウマが原因であることを学説として提示しましたが、精神病理学からアプローチした医者は、少ないのではないかと思います。その事からも分かるように、沖縄ではまだ戦後が続いているということです。

沖縄在住の戦争体験者数はかなり少なくなっていますが、この負の歴史的遺産(記憶)を忘れないようにしたいものです。

本学の建学の精神は「平和主義」を唱っていますが、「〇〇主義」というようなイデオロギー的なものではなく、戦中戦後の実体験から来たものなのです。

沖縄には、第 2、第 3 世代の人々の中にこの負の遺産を継承している人が県外に比べて多くいらっしゃいます。本学院では先生方が平和教育に熱心に取り組むおかげで、基地問題や平和について熱心に考える学生たちが増えてきており、建学の精神が生かされているように思います。

現在、辺野古埋め立ての問題で、沖縄の世論は二分されていますが、保守的な政治家の方々も平和問題に熱心に取り組んでいる姿は、他県とは趣を異にしています。沖縄が二度と戦争の被害者にも加害者にもならないように心したいものです。この学院の教育の中心は偏見から解放された平和をつくり出す人材の育成を目指しています。この気持ちをこめて卒業生を送り出し、新入生を迎えたいと心から願っております。

キリスト教・平和活動 ～宗教部・沖縄キリスト教平和研究所より～

2015 年度サマー聖書キャンプ 2015 年 8 月 19 日～ 21 日

聖書と平和への理解を目指して報告

8 月 19 日から 3 日間、学生 8 名、教職員 4 名、計 12 名でサマー聖書キャンプを実施しました。当初の計画では、伊江島で 2 泊する予定でしたが、接近する台風の影響を懸念し、宜野湾セミナーハウスを拠点に沖縄本島内のプログラムに変更しました(台風接近は本プログラムの最大の懸念です)。1 日目は嘉数高台の旧日本軍陣地の見学を行った後、読谷村の残波岬でのビーチ・アワー、セミナーハウスでの BBQ と分かち合いを行いました。2 日目は南風原陸軍病院壕、糸数アブチラガマ、摩文仁の丘という住民が避難した沖縄本島南部のコースを辿りつつ、戦跡にて平和学習を行いました。夜は宿舎でカレーを作り、聖書研究と分かち合いの時を持ちました。最終日には、プログラム全体の分かち合いを持ち、閉会礼拝をもってプログラムを閉じました。

今回、福岡女学院大学の参加者はいませんでしたが、学生宗教委員以外の学生も含め、昨年度より多くの参加者に恵まれました。また毎日の分かち合いの時を通し、聖書のメッセージや沖縄の将来の平和について理解を深く共有化できたことは大きな収穫であったと確信します。



クリスマス礼拝・祝会

2015 年 12 月 22 日

平和を祈ったクリスマス礼拝・祝会

第 1 部の礼拝では、聖書のクリスマス物語に沿って、日本語、うちなーぐち、諸外国語で聖書が朗読され、キャロルの合唱や説教が厳粛な雰囲気の中で行われました。特に今回は、マオリ語での聖書朗読や保育科 2 年次 3 名による讃美歌手話通訳も取り入れました。2 階席も満席になるほどの盛況ぶりでした。今年も学生宗教委員、学生会、キリスト教芸術受講生の積極的な協力によって学生参加型の礼拝にすることができました。また礼拝の中では、シリア難民を支援する日本基督教団教育委員会をはじめ、6 団体へ尊い献金も捧げられました。

第 2 部の祝会では、2 名の学生宗教委員による創意ある司会のもと、おいしい食事を囲んで学生、教職員、本学関係者と共に楽しい交流と語らいの時を持ちました。今後とも本行事を通してイエス・キリストの降誕への理解、さらには学生、教職員、地域の方々との絆が深まってゆくことを望みます。この行事のためにご協力・ご支援下さった皆様に感謝します!



沖縄キリスト教平和研究所

平和研究所はあなたに開かれています

今年度は沖縄におけるキリスト教の歴史を知る上でかわりの深い仏教の歩みを連続講座で取り上げたり、ルワンダでの民族大虐殺後の和解と癒しへの取り組みから学んだり、多彩な機会を設けました。また、第 3 回目となる「沖縄・長崎・広島から平和を考える学び合い」も実施され、良い出会いと学び合いになりました。

平和研究所の学生活動として「Team 琉球」があります。沖縄の歴史と平和について学び、発信する活動です。

伊江島や宮古島での合宿・フィールドワークも行ない、沖縄本島だけではない広がりの中で学びを深めています。さらに修学旅行生への戦跡ガイドによって学んだことを活かしています。自分たちの生まれ育った沖縄を愛し、楽しく学びながら沖縄のことをもっと深く知っていくこの活動はすべての学生に開かれていますので、どうぞ平和研究所に来てみてください。



平和を考える学び合い

◎学長に聞く

これからの沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学

－ 受け継がれる建学の精神 －

2016 年 3 月、中原俊明学長の 4 年間の学長任期が満了し、友利廣教授に“学長バトン”が渡されます。

新旧二人の学長が、これまでの 4 年間の大学の取り組みを振り返るとともに、これからの大学運営について、語っていただきました。

中原学長が学長任期の間に大切に なさっていたこと、新学長へ託すもの

中原学長 まず第一に大学の建学の精神にこだわりました。初代学長の仲里朝章先生からはじまった本学院の建学の精神。それは、キリスト教をベースにしているのは間違いないが、キリスト教プラス・アルファがあるんじゃないかなと。それは、初代学長の仲里朝章先生をはじめ、歴代の学長先生たちが、何かにこだわってきた。一体、何にこだわってきたのか、書き残されている資料などを読みながら私なりに整理し、それは3つのキーワード「キリスト教」「沖縄」そして「平和」だろうと理解しました。その骨組みの中で、宗教部長をトップに小委員会を作り、2年ぐらいかけて検討して頂いた結果、やはり結論は変わらず「キリスト教」「沖縄」「平和」と答申され、また、2015 年 12 月 17 日の理事会で承認されましたので、次年度からはこの3本柱で大学の色々な活動が展開されていくものと思っています。

第二に、学内のアドミニストレーションのシステム強化です。学長の私的な諮問機関となる教学マネージメント委員会を作り、週1回定期的に集まり学内外の色々な話題をそこで議論し、私なりの考えを練ってきました。教授会は学部長がリーダーシップをとり、特別の時には学長が参加するというシステムを確立し、定着させました。そして、両学部長と理事会のリンケージ。理事会には両学部長常時陪席というシステムも確立しました。副学長を置くことについても少し検討すべきところがありますが、これは次期学長友利先生にバトンタッチしてそこで検討していただく事になろうかと思っています。

第三に財務面の健全化の課題です。2012 年に就任してから今日に至るまでずっと悩まされてきたのは 18 才人口減少の中での学生募集という課題です。これを何とか解消しなければという事で色々な工夫をやってきました。例えば、高校時代プラスバンドをやっていた学生達に大学でもアンサンブルができる環境整備を試みたり、まだ議論の最中ですが、硬式野球部を創部したり。上手くいけばいいなと思っています。

もう一つ大きな問題として、休退学者の抑制問題にも力を入れ、現場のアカデミックアドバイザーの先生方がそういう意識をもち、事務サイドもそれと呼応しながら動いていく。これは相当成果をあげたと私は思って感謝しており

ます。

それと大学の収入源である学生からの学納金のほか、もう一つ国庫補助金。これが年々減少傾向になっています。今まで補助金は機関保証型でしたが、競争型に変わったことは、今後の大きな課題になるだろうと思っています。

友利次期学長 中原学長は琉大を退職した後、に県外の私立大学の勤務を経験し、その後、に本学院の学長を務めてきた訳ですが、この間に色々な企画を現場に根付かせてきたことに、敬意を表したいと思います。

新学長の期待する、これからの キリ学・キリ短への想い

友利 話を始める前にお断りすることがあります。先日、神山理事長、中原学長を始め多くの教職員のご出席を頂き所信を表明しました。これは約束事です。大学運営の基本はそれに則って行います。副学長の件は大学の規模と業務量が判断の根拠となります。本学院の業務の実態を把握した上で慎重に判断したいと思います。

それでは本題に移ります。新学長が“期待する”は、大学運営の責任者の立場からすれば“目指す学院像”が適切でしょう。その上で、中原学長も強調され、又、所信表明でも重視したのが建学の精神です。建学の精神には私立大学創設の理念が凝縮され、又、大学の独自性を打ち出す枢要な教育理念が込められているからです。このような理解の下で、教職員もその対象になるでしょうが、何よりもこれから社会の担い手になる学生へ建学の精神を如何に浸透させるかが課題と言えます。

学生募集の件は、目に見える形で実績を上げ、その成果を社会に向け可視化することが不可欠と思っています。



沖縄キリスト教学院大学
沖縄キリスト教短期大学

第 8 代学長 **中原 俊明**

それが高校現場の信頼を得ることにつながり、意欲的な学生の入学につながると思います。具体策は学内状況をつぶさに調べた上で方針を決めたいと思います。また、補助金の獲得も強化して行きたいと思います。

それから今、非常に深刻になっているのは学生の経済的な困窮問題ですが、学生生活実態調査を行いきめの細かい対策を講じます。すぐにでもできる対策として、学内外の協力を得ながら給付型冠奨学金を拡充し学生が学業に専念できる環境にすることです。中退学者を減らすための抜本的対策としては、人材育成の長期展望に立って企業協賛と行政の協力を得て行くことが大事ではないかと思っています。

新学長からの 地域・社会への メッセージ

友利 大学にはふたつの使命が課せられています。ひとつが社会の担い手である有為な人材を育て世に送り出すことです。次が、多くの研究者を擁する研究機関としての特色を活かし、学問的知見を社会に還元することです。

前者についてですが、キリ学が長年に亘って培ってきた同時通訳者養成システムは、県の国際化拠点施設となる多機能型 MICE 構想の一翼を担う実力を備えているということです。この点は行政との連携強化に向けて策を講じ地域連携を深めて行きたいと思っています。

もうひとつが沖縄の保育現場が置かれている状況に鑑みて、本学の保育科の拡充を図り社会的要請に応えることです。間もなく設置される子ども学部はその役割を担うことになります。沖縄の待機児童は人口比で東京を抜き全国一位です。保育現場の厳しい環境の改善に向けて他の教育機関や行政と連携しながら取り組んで行きたいと思っています。このことが意欲的で有能な保育士を送り出すことにつながり、地域社会への貢献になると考えます。

最後に教員の役割について触れる必要があります。大学に奉職する教員は教育の専門家であり、同時に学術的研究を通して優れた学識を備えています。大学教員の学

術的知見を通して地域社会の潜在力を発掘し、地域の活性化へ貢献することができます。この種の取り組みは補助金獲得を可能にし、大学の情報発信力の強化にも寄与します。従って、どのような仕組みが大学の研究機関としての強みを発揮できるかを検討し対処して行きたいと思っています。

大学に備わる研究機能と地域との係わりについていまひとつ強調しておきたいことがあります。本学院は沖縄では唯一、全国的にも数少ない平和に特化した沖縄キリスト教平和研究所を設置しています。同研究所は本学院の建学の精神を具現化する機能を備えており、同時に沖縄における平和の創造を学問的アプローチと実践的側面から支える役割を担っています。具体的内容に関してはこれから詰めることとなりますが、本学院の教員の皆さん、学外の平和研究者の皆さんの協力を仰ぎながら平和に関する問題を総合的に研究する拠点を目指して行きたいと思っています。

お二人から、学生達へのエール

中原 うちの大学で何を学んだか。カリキュラム面での学びもありますが、個々の人格形成のベースになるのはやはり建学の精神だと思います。そこが他大学を卒業してきた人たちとの違いを一番示せる部分だろうなと。キリスト教的な生き方を学ぶというのは国際人になれる素地があるということですね。そして、沖縄とか平和とかに関心を向けるという事は、その人が社会で非常に重要な役割を果たせると言うことだと思ふんですよ。それにプラスして英語や保育の専門教育では高い評価を受けてますからね。私たちが目指すべきものはそれぞれ専門分野はあるけれども、国際人、コスモポリタンになるということ。学生にはそういう視点や精神を持ちながら学ぶ、つまり専門的な学びと共に建学の精神からしっかり吸収すべきものは吸収して育って行って欲しい。それがひいては大学の発展にもなるし、また郷土への貢献にも繋がると思っています。

友利 これから大学へ進学する皆さんは、高校と大学の教育の仕組のの違いを知ることが大切です。高校では予め敷かれたレールに乗り目的地に着く勉強方法がとられます。しかし、大学においては将来の職業を見据えて専攻分野を決定します。在学期間中に学問を深め、或いは、留学などのさまざまな経験を積み重ねて、社会人としての羽ばたきに備える必要があります。そのためには、常に能動的な学びの姿勢が求められています。本学院の教職員は皆さんが目指す目標を実現できるよう全力を挙げて支援して行きます。

コーディネーター

沖縄キリスト教短期大学総合教育系
上原明子 教授

友利 廣 教授 プロフィール

1948 年旧平良市生。筑波大学大学院 経営・政策科学研究科修了（経済学修士）。民間研究所代表を経て沖縄キリスト教短期大学助教授、沖縄大学教授、同大学院兼担教授、法経学部長を経て現在同大学特任教授。専門は開発経済論、比較島嶼経済論。

平成 27 (2015) 年度 海邦養秀ネットワーク事業

ドイツの「家族」に会いに行こう！

英語科 2 年次 (2015 年度卒業) 山口 枝梨佳

この事業は、沖縄県の若い世代を海外県人会へホームステイ派遣し、海外県系人との国際理解を促進し、友情を深め、「ウチナーネットワーク」を担う次世代の人材育成を目的とした短期派遣プログラムです。

今年度、私が派遣された国はドイツでした。ドイツは日本と共通した歴史背景を有しています。近年の世界情勢から「平和」について強く関心を持つ私は、ドイツの方々の平和に対する意識を学びたいと考え、参加を決意しました。

多くを学んだ 2 週間特に印象に残っていることは、ドイツの高校生たちとの平和学習です。お互いの平和教育や自国の外交などについて意見交換をしました。1 つ取り上げると、ドイツは政策として戦後の情報公開を大切にしている、後世にも残る媒体である本・教科書に彼らの過ちを詳細に残しています。「反省から学び、改善に努める」この「まっすぐさ」は見習っていきたく強く感じました。

自分たちの国についてしっかり勉強しているドイツの高校生たちや、2 週間行動を共にしたドイツ沖縄県人会の方々に刺激を受け、自分も沖縄のことをしっかり学び「ウチナーンチュ」として世界で活躍できるよう成長したいと思いました。現在は沖縄について学ぶ授業を受け日々勉強しています。また、来年の「世界のウチナーンチュ大会」へ参加し、世界中の県系人と交流し、新たなウチナーネットワークを広げていきたいです。



第 2 回沖縄学生サミット

学生代表を経験して

英語コミュニケーション学科 4 年次 (2015 年度卒業) 外間 桜子

2015 年 12 月 19 日万国津梁館にて学生サミット 2015 を開催しました。

沖縄県にある 11 大学・短大・高専の学生の英知を結集し、「2030 年の世界は平和か」というテーマで、観光・宗教・科学技術・経済・ジェンダーなど 11 項目に分かれ約 300 名の参加者が、平和へのアプローチを考えました。

私は 36 名の運営メンバーの学生代表として関わらせていただき、各大学の代表が集まるミーティングを指揮するのは容易ではなく、良い雰囲気作りや時には意見のぶつかり合い、事務局との調整など、うまくいかず悩むこともありました。しかし、この経験を通して、リーダーシップ、企画運営、気配り目配り心配りを学びました。またサミット当日には、約 300 名の参加者を前に、英語で Welcome Speech の役を務めました。

沖縄県、大学コンソーシアム沖縄事務局、運営メンバー、この機会を与えてくれた大学にも、心から感謝申し上げます。



★学生サミットスタッフとして本学から参加しました！
左から菅原佳奈子さん（英語科）、外間桜子さん（英コミ）、喜久川夢さん（英コミ）、山口枝梨佳さん（英語科）。

トビタテ！留学 JAPAN

「沖縄からアジアへトビタテ！留学 JAPAN」本学学生が採用されました。

英語コミュニケーション学科 4 年次 照屋 葉月

官民協働海外留学支援制度「トビタテ！留学 JAPAN 地域人材コース」は、将来の沖縄産業界を牽引するグローバル人材の育成を目指し、県内産学官の連携によって、アジア各国でのインターンシップを中心としたプログラムを展開します。

今回、私は第 3 期派遣学生として採用されました。派遣先は台湾です。

私が本制度に応募した理由は、2 つあります。1 つは、家庭の経済状況の問題で自費では留学できなかったということ、もう 1 つは沖縄県・与那原町を世界へ広めたいと思ったからです。

本制度では単に語学を学べるだけでなく、実際に海外企業でのインターンシップに参加することが出来ます。私は今回、旅行社で 2ヶ月間のインターンシップに参加させて頂き、台湾の旅行会社の状況や、台湾人の傾向・思考を業務の中で学ぶことができました。海外で働くという感覚を実際に経験することで、理想とのギャップや日本企業と海外企業の違いも知ることができ、とてもいい経験になりました。

私はこの経験を、出身地である与那原町の観光発展に活かしていきたいと考えています。観光客がほとんど訪れないと言われている与那原町をどう盛り上げていくか、地域の方々と一緒に課題解決に取り組みたいです。それから本制度に参加して、全国にたくさんの友人ができました。留学生同士のコミュニティがあるのは、本制度の最大の魅力だと思います。このような機会を与えてくださった方々、トビタテで出会った仲間たち、そして台湾で出会った方々、思い出は全てかけがえのない宝物になりました。



日本語検定東京書籍賞優秀賞受賞

平成 27 年第 1 回「日本語検定」において、東京書籍賞優秀賞（大学・短大等部門）を受賞しました。本学では、日本語検定対策講座を開講し、上原明子教授の厳しくも温かいご指導のもと、16 名の受講生が日本語検定 3 級にチャレンジし、全員が認定または準認定という優秀な成績を収めたことが評価されました。東京書籍賞優秀賞は、受検級のレベルや認定率（合格率）等を総合的に判断し、文部科学大臣賞受賞団体を除き、優秀と認められる団体に贈られる賞で、今回の受賞は、今後の受講者の励みになるでしょう。



献血運動推進功労者として沖縄県知事より感謝状！

10 年以上の献血運動の功績が認められ、沖縄県知事より感謝状が贈呈されました。年 2 回献血車が来て、学生・教職員が授業の合間や休憩時間に献血を行っています。学生の皆さんのボランティア精神及び沖縄県赤十字血液センターのサポートのおかげです。ありがとうございました。



部・サークル紹介

硬式野球部

チーム初の公式戦に向けて

2015 年 6 月 5 日、本学院に硬式野球部が創部されました。8 月には九州地区大学野球連盟への正式加盟が承認され、週刊レキオ (No.1591) と地元月刊誌の野球大好き第 55 号 (10 月号) に硬式野球部の紹介記事が掲載されました。

監督には、本学院の金城雄彦総務課長が就任。過去に名桜大学の硬式野球部を立ち上げ、創部 2 年目に九州地区大学野球選手権大会でチームを準優勝に導いた実績の持ち主です。金城監督は「地元で野球を続けたい高校球児の受け皿となり、県内の大学進学率を高めたい」「部活動や学内活動を通して『人間力』を高め、就職に強い学生の育成が目標」と抱負を語っていて、2016 年 4 月の初公式戦に向けて、部員と共に、日々練習に打ち込んでいます。

県内 5 番目の大学野球チームとして、学内のみならず地域の人々に愛されるチームとなるよう、選手・スタッフ一同は真摯に取り組んでいます。皆様方のご支援をよろしくお願いいたします。



学 P 2015 沖縄リーグ

沖縄ファミリーマート主催の「学 P 2015 沖縄リーグ」に高崎ゼミ中心の学生たち (代表 眞榮田舞) が参加しました。テーマ「カフェメニュー」のもと、弁当部門で挑戦し、県内 7 大学中、見事売上げ 1 位を達成し、ベスト学 P 賞を獲得しました。主客層である男性をターゲットに、メインのチキンカツにツナを使用したソースをたっぷりのせた「チキ×チキ Don 丼〜ツナサルサマヨソースをかけて〜」というボリューム満点の弁当を開発しました。

商品開発・CM 撮影・販促活動など、商品が消費者のもとへ届くまでの一連の業務に携わることができ、貴重な体験をすることができました。

参加した学生たちは、大学生活の中で良い思い出をつくることができたと同時に、学んだことを今後の学生生活や就職活動に活かしていきたい、と強い意気込みを見せています。



WLO サークル

広がりつつある清掃活動の輪

本学院には、清掃活動を行うボランティアサークル We Love Okinawa (WLO) があります。このサークルは、2006 年 5 月に設立しました。2015 年 12 月現在で 88 回の活動を行い、1,415.7kg (第 43 回活動から集計) のゴミを回収してきました。本学の学生でたとえると、一人あたりおよそ 1.6kg のゴミを回収したことになります。ゴミの回収量は第 43 回からの集計ですので、倍近く回収しているものと思われます。

この結果を見ると、私たちの身近に数多くのゴミが散乱していることがわかります。これらのゴミがなくなることを心から願って、今後も WLO サークルは活動を続けていきたいと思っています。



大学コンソーシアム県民向け公開講座

2015 年 9 月 26 日、本学院チャペルにおいて、一般社団法人大学コンソーシアム沖縄及び本学院主催による県民向け公開講座を開催しました。大学コンソーシアム沖縄は、県内 11 の大学、短期大学及び高等専門学校により構成された団体で、地域の活性化及び沖縄県の発展と振興に寄与することをめざし、その取り組みの 1 つとして、構成機関による持ち回りでの県民向け公開講座を実施しています。今回、沖縄キリスト教学院大学・短期大学が担当するにあたって、学長自らが先頭に立ち「建学の精神」に基づく企画立案がなされました。

講師には、佐藤優氏 (作家、元外務省主任分析官) を招聘し、「沖縄の歴史と現状が問う教育の課題」のテーマで講演を行いました。冒頭、中原俊明学長より、開催に至る経緯及び講師紹介が行われました。講演の中で佐藤氏は「沖縄は今、大きな転換期を迎えている。沖縄が主張する自己決定権こそは、近代の普遍的価値である。日本人の常識に頼ったら沖縄問題はまず解決しない。辺野古移設問題は安全保障でなく、差別の問題である。教育はとても大事だが、一方的でなく常に両論併記の学びが必要」と述べ、さらに「本学院で学んで欲しいことは、キリスト教の他、ユダヤ、ギリシャ、ローマ等の思想である。国家主権や国際連合も、これらが世俗化されて生まれたもの」と、学生たちへ学びのメッセージを送りました。その後の質疑応答では、フロアから多くの質問が出され、活発な質疑応答が行われました。講演終了後、神山繁實理事長より閉会の辞があり、150 名の聴講者からの大きな拍手とともに盛況のうちに終了しました。



大学・短期大学トピックス

●大学院

2015 年度 大学院主催国際学術会議

「開発、破壊、冒涇の言説 ―自然に対する人的操作の研究―」の開催

2015 年 10 月 31 日(土)、本学大学院異文化コミュニケーション学研究科は国際シンポジウムを開催し、カナダやシンガポールからも研究者が集いました。シンポジウムのタイトルである「開発、破壊、冒涇の言説―自然に対する人的操作の研究―」は、研究者のみならず教員や活動家、学生など広く政府や企業の「進歩」や「安全保障」、「防衛」という名の下の開発を研究調査している人々を包括し、学内外から 73 名の参加者がありました。基調講演は、シンガポール国立大学で言語学と文学を担当するジョン・ウェイルン・ブリッジ博士が講師を務め、彼の研究分野でもある中国政府がチベット人に対してどのようなレトリック操作を用いて統治しているか、逆にチベット人が不服従を貫いてそのレトリックをかわしているか、また善の象徴であるチベット仏教僧などについて講演がなされました。本研究科の客員教授でもあるダグラス・ラミス博士は、近代化イデオロギーの理論と実践の歴史について触れ、近年の人類と環境への影響について特別講演を行いました。最終のセッションでは、本学英語コミュニケーション学科の学生と沖縄国際大学の学生がパネルディスカッションを行い、フィリピンにおける開発プロジェクトが住民へもたらす影響について、夏の研修に基づいて報告しました。また、翌日 11 月 1 日(日)にはバスツアーを実施し、14 名の参加者と共に辺野古や嘉数高台を訪れ、実際に「開発」や「破壊」されている現場を見学しました。



●英語コミュニケーション学科

教職課程



本年度、14 人の学生が本学の教職課程を修了しました。そのなかで、比嘉麻莉奈さんが沖縄県の中学英語の教員採用試験に現役で合格しました。現役での合格は他大学を含めても彼女ただ一人であろうと思われます。その快挙に賛辞を贈ります。

他の学生に関しても、臨時任用、非常勤講師として教育界に進んでゆく者が多くおります。また教育関連企業へ就職する学生もおります。一般企業へ就職するものもおります。

その皆さんにとって、4 年間の教職課程での学びは充実したものでした。特に 4 年次の教育実習は大きな成長の機会でした。教育実習の前後で、学生たちの発言の質が大きく変わり、社会や教育への考えに深まりが生まれました。そこで得た経験は、どのような方面に進もうと、みなさんの人生の支えとなると確信します。今後の活躍をお祈りいたします。

合格者の声

「英語で生きる」教えたい

英語コミュニケーション学科 (2015 年度卒)

比嘉 麻莉奈

進学先：University of Essex MA in Teaching English as a Foreign Language/
Teaching English to Speakers of Other Languages (TEFL/TESOL)

「英語しか出来ないから、とりあえず ...」2012 年、キリ短に入学した際の私の心境です。短大を卒業後は、英語関係の職につくことを目標に始まった私の大学生活は、入学直後に一変することになりました。素晴らしい教授陣との出会いがあったからです。先生方の、真摯に学生と向き合う姿勢や情熱に感化され、気が付けば、私もそんな教員になりたいと強く願うようになっていました。

キリ学に編入後、教員採用試験合格のために続けたのは、英語塾講師のアルバイト、城間仙子先生のクラスで行われる月曜礼拝での日英同時通訳、教職課程・本科講義ともに全力を尽くすことの 3 つです。「人に教えることが一番の学び」という言葉通り、英語塾で働くことで英語力が飛躍的に向上しました。礼拝での通訳も毎回真剣勝負で、英語だけでなく責任感と向上心を養うことが出来ました。教職では照屋信治先生の教員採用試験対策講座に参加したり、大城直人先生から模擬授業のご指導を頂いたりすることで、自分に足りない部分を補うよう努めました。合格した時、先生方が我が事のように喜んでくださったのが本当に嬉しかったです。

しかし学び続ける中で、自分が、教科としての英語よりも、英語をツールとして世界と渡り合っていく生き方を若い世代に伝えたいということに気づき、教育をより深く学ぶために大学院進学を決意しました。大学院での学びをもとに、将来、これからの沖縄を担う子ども達の一助となる教員を目指したいと思います。



●英語コミュニケーション学科

グローバルスタディーズコース

「地域歩き」に見るコースとして大切にしたいこと

「地域を実際に歩き、人と話をする」学びの中で交わされる会話、訪問地の空気感、匂いや雰囲気、良い点も課題点も含めて身体で感じる時間なのです。昨年訪問した津堅島では「はいさーい、わんねー〇〇やいびーん」と学生が簡単なうちなーぐちを使いながら聞き取り体験、戦前戦後を生き抜いた年配の皆様からの貴重な恋話、島で出会った子ども達に簡単な英語を教える姿、どれをとっても教室を飛び出したからこそその貴重な時間でした。

文部科学省審議の中で、高等教育の「量」から教育の「質」へと転換、特に問われる力として、課題解決型の能動的学修(アクティブラーニング)が挙げられています。小回りの利く大学だから出来ること、キリ学だから出来ることを大事にしながら、これからも地域を歩き、素敵な人に実際に会いに行く授業を大切にしていきたいと思います。



●保育科

ワイワイプラザ (地域子育て支援実習)

ワイワイハロウィン in 児童館

2015 年 10 月 24 日(土) 10:00 ~ 12:00 坂田児童館。キリ短保育科と西原町の共催で、初めて児童館での出前ワイワイプラザ「あなたの街にやってきた!ハロウィン祭だ!ワッショイ、ワッショイ!」を開催しました。担当は川西康裕アドバイザーグループの 1・2 年生 15 名(リーダー：金城桃花)と坂田児童館の児童厚生員 3 名。内容は、ボウリング・輪投げ・射的などのゲーム、かぼちゃのお面づくり、ペーパーサート劇など。坂田保育所の 0~1 歳児とおなが学童の子どもたち(小 1~4)・職員を含め、子ども 55 人・大人 11 人が参加しました。

同日 13:30 ~ 16:00 西原東児童館。担当は川西グループの 1・2 年生 17 名(リーダー：宮城恵子)と西原東児童館の児童厚生員 2 名。内容は、キリ短学生がボウリング・どうぶつマネっこゲーム・かぼちゃの小物入れづくりなど。児童館職員がネイルシール・フェイスアート。美原学童の子どもたち・職員を含め、子ども 50 人・大人 10 人が参加しました。

そして 1 週間後の 10 月 31 日(土)10:00 ~ 12:00、両児童館で同じ時間に赤嶺優子グループによるハロウィンあそびが行われました。



●英語科

English Camp

勉学と友好の一石二鳥

5 月、授業に少し慣れたころ、英語科では 3 日間の English Camp を行います。初日は、キャンパス内で、英語を使っているいろいろな活動を行います。くじを引いて英語で Interview、どれだけ正確に単語を知っているか競う Spelling Contest(チーム戦、個人戦)、アドバイザーグループで短い英語劇を作って演じる English Skit など。一緒に活動するうちに、英語を使うことに慣れていきます。仲良くなったところで、2 日目からは、渡嘉敷島へ。美しいビーチでの海洋研修や、グループごとに英語でコミュニケーションしながら、英語で出された問題を解いていく Treasure Hunting など。英語力、コミュニケーション能力を鍛えつつ、友好を深める企画です。このキャンプは、教室とは違った環境によって勉学意欲を刺激し、能力を高めると同時に、人間関係の構築に大きく貢献しています。



●総合教育系

平和学習ツアー

現場に赴き、沖縄の将来を想像してみる

総合教育系では毎年恒例の平和学習ツアーを 8 月 1 日(土)に実施しました。今回の目的地として、辺野古のキャンプ・シュワブゲート前と辺野古座り込みテント村を選びました。現在、日本政府と沖縄県が基地建設を巡って法的にも争うという異例の事態が続いていますが、私達が生活する沖縄の地で今後基地問題を議論してゆくに際し、まず現場を視察し、その空気を体感してみようというのが、今回の大きな研修の狙いでした。ガイドとして平和学習に造詣の深い又吉京子氏(沖縄キリスト教センター館長代理)から、歴史的経緯や日米地位協定の本質等を含むトータルな視点からの基地の現状を説明していただきました。辺野古基地建設を巡っては様々な立場がありますが、多くの県民が政府の手法に疑問と怒りを感じています。私達参加者はテント村で海を眺め、説明を聞きながら、一つのことを想像してみました。辺野古に基地が建設されたらどうなるのか。現場に行ってみると実感したことですが、それは美ら海を破壊するだけではなく、沖縄本島が軍事要塞化されてしまうことです。それは沖縄の歴史的視点から、何よりも本学の建学の理念から望ましい方向とは言えません。過去と現在はもちろん 50 年後、100 年後にわたるより長期的展望からも、この問題を私達は見つめる必要があると感じました。



同時通訳集中講座

2015 年 8 月 2 日～9 日

今年度で 23 回目を迎える本講座では、主任講師の宮田燿彰先生と本学講師陣（柳田正豪准教授、城間仙子准教授）に加え、外部講師として宮国薫子先生（琉球大学観光産業科学部講師）、玉城弘子先生（フリーランス通訳者）にも授業をご担当いただき、幅広く豊かな内容の講座実現にご協力をいただきました。

今年度の特別講演には、沖縄科学技術大学院大学（OIST）でポストドク研究員をされている Eric Edsinger 氏をお招きし、“Tiny Squid from Okinawa Are Getting Big in Research”と題して沖縄の海に生息する小さなイカや頭足類が科学の基礎研究において大きな可能性を持っていることについて、大変貴重で興味深いお話を賜りました。普段あまり接することのない科学的・専門的な内容に、受講生たちも最初こそ戸惑いを見せていましたが、通訳の準備が進むにつれて熱い質問や議論も交わされるなど、盛り上がりを見せてくれました。本番では、初級クラスの受講生たちもブースに入り、果敢に同時通訳に挑戦していました。

毎年心配な台風ですが、今年は大きな影響もなく、無事予定通りに 8 日間の日程を終えることができました。関係者の皆様の多大なご協力に感謝申し上げます。



学内英語弁論大会

2015 年 11 月 7 日

11 月 7 日（土）、沖縄キリスト教短期大学・沖縄キリスト教学院大学主催による、第 35 回学内英語弁論大会が開催されました。参加者は、スピーチの持ち時間 5 分程度で、英語で自分の経験や考察を述べていきます。今年は、四大英語コミュニケーション学科から 5 名、短大英語科から 4 名の学生が参加しました。トピックはボランティアについて、言葉の力、愛するものをどうやって守るか、死についてなど、様々なものでした。学生たちが時間をかけて練り上げ、練習したものだけあって、スピーチはどれも素晴らしく、入賞者を選ぶのに時間がかかりましたが、最終的に、キリ学の 3 年次、英語科の 2 年次が入賞を果たしました。今年も昨年に引き続き、元沖縄県副知事で沖縄ガリオア・フルブライト同窓会長の比嘉幹郎氏が審査員として参加してくださいました。



学内英語弁論大会結果

1 位	照屋 盛治 英語コミュニケーション学科 3 年次	Veiled Possibility of OCU
2 位	方 琰然 英語科 2 年次	Away from the Edge
3 位	糸数 なつき 英語科 2 年次	True Smile

スピーチはすべて、ハイライトシーンを本学ホームページで視聴することができます。3 人の受賞者たちのスピーチをフルバージョンでお楽しみください。

URL : http://www.ocjc.ac.jp/2015/11/30/35_eigobenron/

高校生英語弁論大会

2015 年 12 月 12 日

第 27 回高校生英語弁論大会が 12 月 12 日（土）に本学仲里朝章記念チャペルにて開催されました。11 人の沖縄の高校生がソーシャルメディアの危険性について、正直でいることの大切さ、英語の重要性など様々なテーマについて自分の意見を述べました。参加者はテーマについてリサーチをし、自分の経験を取り入れるなどして素晴らしいスピーチを準備し熱弁したと審査員に賞賛されました。

1 位に輝いたのは“Teaching the Beauty of Math”（数学の美しさとは）について語った首里高等学校の佐久田南さんです。テーマがとてもユニークであると共に、情熱的で、ユーモアにあふれ、魅力的なスピーチを堂々と弁論してくれました。2 位に選ばれたのは開邦高等学校の神谷菜緒さん、3 位は沖縄尚学高等学校の具志堅ありさんでした。そして Best Impromptu 賞には即席の Q&A に対し自信を持てた確かつスムーズに答えた知念高等学校の小橋川翔斗さんが選ばれました。学長賞には日本の女性の未来について語った向陽高等学校の上運天来海さんが選ばれました。毎年この弁論大会のレベルは高くなっており、スピーチの内容も非常に興味深いものになってきています。



高校生英語弁論大会結果

1 位	佐久田 南 首里高等学校 2 年	数学の美しさとは Teaching the Beauty of Math
2 位	神谷 菜緒 開邦高等学校 2 年	違いが生み出すハーモニー The Harmony in Variety
3 位	具志堅 ありさ 沖縄尚学高等学校 1 年	本当のコミュニケーションって何だろう？ Social or Anti-Social?
Best Impromptu 賞	小橋川 翔斗 知念高等学校 3 年	英語の大切さ The Importance of English
学長賞	上運天 来海 向陽高等学校 2 年	日本における女性の未来 A Future for Japanese Women

学内行事

今年度も沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学合同で様々な行事が行われました。

キリ学祭

第 51 回キリ学祭『One Home One Heart Be As One ～心をひとつに～』

2015 年 11 月 7 日（土）、8 日（日）



キリ学祭を終えて

英語コミュニケーション学科 2 年次（2015 年度学生会長） 栄口 夏子

私は 2015 年度キリ学祭実行委員長として、この 1 年全力で取り組んできました。準備期間から本番終了まで、今までに無いほど忙しくて緊張していた事を今でも鮮明に覚えています。今年度の学生会が始まった当初は、全ての行事を成功させることが出来るのか不安で一杯でした。しかしその時支えてくれたのが、学生会のメンバー達でした。私は自分 1 人で責任を抱えてしまうところがあります。そんな時もサポートしてくれた学生会の仲間のおかげで、この大きな舞台を創り上げることが出来たと感じます。

フィナーレの時、舞台の上で感じたあの喜び、達成感、感動は私たちの一生の財産になったと心から思います。この経験を活かし、これからもより一層成長していきたいと思っています。



新入生オリエンテーション

英語コミュニケーション学科

2015 年 5 月 13 日（水）～15 日（金）

恒例の新入生オリエンテーションキャンプが、5 / 13（水）～15（金）の 3 日間、渡嘉敷島で行われました。今年度は、2 日目から短大英語科も合流し、学科の垣根を越えて交流を図り、親睦を深めることができました。金城重明先生の講話を皮切りに、平和学習では集団自決跡地に足を運び、戦争の悲惨さと平和の尊さを心に刻みました。また、海洋研修では自然の恵みを満喫し、キャンドルの集いでは学生会の皆さんの尽力のおかげで、笑顔の絶えない楽しいひと時を過ごすことができました。さらに、学生生活の充実には、学業とアルバイトの両立や目標の設定が不可欠であることも学びました。学びの縦糸とレクリエーションの横糸で織り成された渡嘉敷キャンプは、学生生活の一頁を飾るに相応しい有意義なものとなりました。



スポーツデー

2015 年 4 月 18 日（土）

今年も新入生歓迎スポーツデーが開催されました。バレーボールを中心にクラス対抗のトーナメント式で対戦。お揃いの T シャツを作成し、円陣を組んだり、声がり張り裂けるほどの応援をするチームもあり、一致団結！エキサイティングなプレーや応援合戦で盛り上がりました。また、5 色綱引きの力と頭脳の駆け引きも見物でした。プレーの合間の弁当会もとても楽しめました。

短期大学新入生オリエンテーション

英語科・保育科・総合教育系

2015 年 4 月 4 日（土）

短期大学部長 大山伸子

渡嘉敷島で実施されてきた新入生オリエンテーションを学内に移してから 3 年目に入りました。新プログラムは、「建学の理念」「アカデミック」「人間関係の構築」の三本柱を堅持しつつ、「アカデミックオリエンテーション」の一層の充実を図って参りました。

午前は、開会礼拝と金城重明先生（第 3 代学長）の講演後、英語科、保育科独自の「アカデミックオリエンテーション I」を実施し、昼食はアドバイザー・グループ毎に弁当をいただきながら教員と学生がコミュニケーションを深めました。

午後は、総合教育系の「教養教育を学ぶ意義とは」を全体講義、その後、各学科の「アカデミックオリエンテーション II」、後半はキャリア支援課による「就職について」の説明会を実施しました。



講演を行う金城重明先生（左）

ご卒業おめでとうございます

建学の精神を知っていますか

沖縄キリスト教学院大学大学院
異文化コミュニケーション学研究科
英語教育領域

砂川 真紀



沖縄の社会と米軍基地との関係を修士論文のテーマに選びました。以前は海外にばかり目が向いていた私ですが、沖縄や日本国内の問題に徹底的に向き合った二年間でした。その中でふっと沸いた疑問は、本学に関わる人のどれだけが、本学の建学の精神を日々意識しているのかという問いでした。私は、「沖縄が二度と戦火に見舞われる事のないよう、イエス・キリストの精神の下で教育を受けたピース・メーカーの手によって“平和の島”として蘇るべき」という理念のもとに建学された本学の卒業生として、卒業後もずっと意識し、自問しつつ、行動していきたいと思っています。

あっという間だったけど充実したキリ短 / キリ学ライフ

英語コミュニケーション学科

就職先：航空会社

砂川 綾貴子



短期大学に在学中、「2 年間はあっという間だよ」という言葉を毎日聞きました。アメリカの大学編入を考えましたが、沖縄の観光に貢献したいという気持ちが高まりキリ学に編入しました。短期大学では主に語学資格の取得に集中し、キリ学に編入後、学内・外での通訳ボランティアを通して語学力の向上に力を入れました。私が就職活動を開始したのは4年生の7月でしたが、それでもあせらずに就活に取り組めたのはキリ短入学当初から卒業後の「準備」を行っていたからだと思います。私は進路について4年間悩み続けましたが先輩から何度も聞いたのが「学生生活は本当にあっという間」ということです。ちょっとでも気になることがあれば挑戦し、アンテナを張りながら充実した学生生活を送ってください！

琉大に編入を決めた理由

英語科

編入先：琉球大学法文学部
国際言語文科学科

下條 詩織



私は中学生の時に中国に留学しました。将来は中国語と世界共通語である英語も活かせる仕事がしたいと思いキリ短に入学しました。学校では英語を勉強し、アルバイト先では中国語の通訳をしたりと、この2年間常に語学が身近にあった気がします。進路については得意な中国語をもっと学びたいと考えたので専門分野のある琉大に編入を決めました。皆さんも就職や進学のことでも悩む時期が来ると思います。その際、他の人とは違う何かを持っていれば必ず自分にとっての大きな強みになると思います。沢山のことを上手く両立させながら楽しい学生生活を送ってください！

キリ短で学んだ幸せづくり

英語科

社会人入学生

中原 一子



学びを求めて還暦を過ぎてからキリ短の英語科に入学しました。だから授業はとても刺激的で楽しいものでした。しかし、長いブランクを経ての学生生活は、課題をこなせず落ち込むこともあり。そんな時は皆、優しく声をかけてくれます。月曜礼拝では、神は常にそばにいてくれると説かれ、心理学の授業では、人は皆劣等感を持っているものだ。努力と成長への刺激であるから、逃げることなく自分の人生を創るのだと習いました。私は、この大学で自分の自由な時間を多くの学びにフル活用し、新たな人生を創ることができました。更に幸せになる方法まで教えてもらいました。

出会いに感謝

保育科

就職先：公立保育所

伊良波 近司



私は幼稚園生の時の担任に憧れて、将来保育に携わる仕事に就きたいと決意し、キリ短の保育科に入学しました。学生生活は日々の課題やバイトで多忙を極めました。周りには、私と同じ「保育者」を目指す仲間がいるので、お互いに助け合いながら、時には課題を忘れるくらい遊ぶときもありました。また、学生会の副会長として、新入生歓迎行事やキリ学祭にも取り組み、かけがえのない経験となりました。キリ短での二年間はあっという間ではありますが、夢を叶えるために保育を学び、同じ夢を叶えるために一緒に学ぶ最高の仲間に出会うことができたので、とても充実した二年間を過ごすことができました。今年卒業して、保育士として社会人になりますが、新しい出会いに感謝しながら、新たな環境で頑張りたいと思います。

私が進学を決めた理由

保育科

進学先：沖縄国際大学
総合文化学部
人間福祉学科

前泊 栞名



私は、1 年次のときに行った児童相談所での施設実習を通して、進学を決意しました。この実習では、家庭環境が複雑であったり、非行をする可能性のある子どもなど、それぞれに事情を抱えた子ども達と関わりました。そのなかで、私も何か子ども達の力になりたいと考えるようになり、将来は児童相談所などの児童福祉に貢献できる場で働きたいと思うようになりました。そして、そのためにはもっと子どもを取り巻く環境や福祉について学ぶ必要があると考え、進学を決めました。保育科での実習や勉強を通して将来やりたいことがみつかることもあると思うので、2 年間という学生生活を有意義なものにしてください。

キャリア支援

進路セミナー

2015 年 6 月 12 日

全学科 1 年次を対象に、「進路セミナー」を開催しました。

進路セミナーは、学生支援部(学生課、キャリア支援課、国際平和文化交流センター)が主催し、学生生活の過ごし方を始め、進学、就職、留学と進路について早期に幅広く、かつ深く考えてもらうため、教員、OB・OG の皆さんの協力のもと、授業を一日休講にして終日実施するプログラムです。午前中の前半は、1 年次全員がチャペルに集合し、全学科共通プログラムとして「キャリアについて考える」をテーマに学生生活の過ごし方、女子学生のキャリア教育について学び、午後の後半から午後にかけて、各学科に分かれ、自分自身が目指す進路についての情報収集や具体的なアクションの方法を学ぶ等、様々なプログラムが実施されました。特に、最後のプログラムである「OB・OG パネルディスカッション」では、OB・OG の皆さんから、学生時代に何を学んでほしいのか、またその学びが現在の仕事にどのように活かしているのかなどを伝えていただき、学生にとって将来の進路について真剣に考える良い機会となりました。



就活体験☆合宿

2015 年 11 月 28 日～ 29 日

四大 3 年次、短大 1 年次を対象に「就活体験☆合宿」を開催しました。

この合宿は、就職活動で行われる一連のイベントや選考過程で行われる、合同企業説明会、エントリーシート・履歴書作成、集団面接、筆記試験、グループワーク、グループディスカッション等をダイジェストで体験することで、就職活動が始まる 3 月までの準備期間の過ごし方の重要性を学ぶとともに、3 月以降の就職活動について具体的にイメージできるよう就職活動に必要な要素を網羅しました。合同企業説明会(業界研究)では、県内各業界を代表する企業をお招きし、航空業界、旅行業界、ホテル業界、流通小売業界について説明をいただき、各業界への理解を深め、興味の対象、視野を広げることができました。集団面接では、企業の方も面接官として参加していただき、厳しい質問も出るなど、本番さながらの緊張した時間を体験することができました。この合宿を通して、参加した学生の皆さんはこれから始まる就職活動に向けて各自の課題を発見し、就職への意欲を高める良い機会となりました。



保護者向け就職活動セミナー

2015 年 11 月 7 日

四大 1 ～ 3 年次、短大 1 年次の保護者の皆さまを対象に、キリ学祭に合わせ、「保護者向け就職活動セミナー」を開催しました。

現在の就職活動は、学生の保護者の皆さまの世代とは大きく様変わりしており、また、就職活動のスケジュールの度重なる変更や選考方法の複雑化も重なり、学業に支障が出る等、様々な弊害や混乱が起きています。このような状況の中、これから就職活動を迎える学生の保護者の皆さまに、現在の就職活動の実態を把握していただくため、本学の就職状況、就活スケジュールの流れ、企業の採用動向、本学の就職支援の内容、保護者の皆さまにできるサポート等についての解説と、就職内定学生の就活体験の報告会を行いました。

特に、就職内定学生の報告会では、親から受けたサポートで一番何がうれしかったのか、助かったのか、心強かったのかなど、学生視点での生の声を聞くことで、これから迎える就職活動に対し、一番身近にいる社会人として、良き理解者、応援者となるために真剣に考えるきっかけができたとの感想もあり、非常に有意義なプログラムとなりました。



カピオラニ・コミュニティ・カレッジ (米国ハワイ州)と協定校締結

2015年6月19日

「カピオラニ・コミュニティ・カレッジ（以下カピオラニ CC）」は、オアフ島に位置し、ハワイ大学機構を形成する一校です。今回、カピオラニ CC と協定を締結する運びとなり、本学にて調印式を挙行了しました。当日は、カピオラニ CC より、Leon Richards 総長と、国際交流ご担当の Takashi Brandon Miyaki 様が来学されました。式典では、中原俊明学長とともに、両校のさらなる発展、交流を祈念しつつ、協定書への調印がなされました。Richards 総長より以下のメッセージを頂きました。

「この度の調印式に参加出来ることを大変栄誉に思います。両校の連携によって、国際的な教育体験を学生に提供して参ります。また、教育の強化のみならず、日本、ハワイ、そして世界との理解、友情を育む機会となることを確信しております。」

この協定により、協定校留学の選択肢が更に広がります。今後の更なる国際交流の活性化を期待しています。



ハワイ研修・海外幼児教育研修

2015年度研修日程：2016年2月12日～28日

本研修では、協定校「カウアイ・コミュニティ・カレッジ（米国ハワイ州）」へ訪問します。英語のトレーニングはもちろんのこと、現地学生との交流、フラや工芸などのハワイ伝統文化の体験学習も用意されており、ハワイのおもてなしに触れながら、他者理解力を身につけます。

英語コミュニケーション学科・英語科の学生が参加する「ハワイ研修」では、ハワイの観光ビジネスについて学び、保育科学生の「海外幼児教育研修」では、ハワイの幼児教育施設を見学します。

参加した学生からは「オールイングリッシュの授業は刺激的だった」「ハワイの子どもたちとの触れ合いが楽しかった」等の感想がありました。本研修参加後、ハワイへの関心を深めて留学を決意する学生もあり、学生の「世界」を広げるプログラムとなっています。



ix 国際交流友の会 沖縄の歴史・文化学習会 2015

2015年7月4日

「ix 国際交流友の会」は、留学生とともに学内外の国際交流に関わる友の会です。その一環として、「琉球王国時代の国際交流に触れるツアー」と題した学習会を実施しました。午前中は、中国福州の伝統技法を用いた本格的な中国式庭園「福州園」、儒学の祖や道教の神を祀る「孔子廟・天妃宮・天尊廟」を訪れ、沖縄への中国文化の影響について学びました。午後は「首里城公園」に移動し、世界遺産や城内を見学しました。地元に住んでいると観光名所や史跡を巡る機会は意外と少ないものです。この学習会への参加を通し、沖縄を再発見する機会となりました。



りゅうぎん国際化振興財団助成事業 Pembroke Players Japan Tour 沖縄公演『間違いの喜劇』

2015年10月3日

英国の名門ケンブリッジ大学ペンブルック校より、学生劇団「Pembroke Players」を招聘し、シェイクスピア劇『間違いの喜劇』日本ツアー沖縄公演を、本学チャペルにて実施しました。本場英国のシェイクスピア劇とあって、県内教育機関、アメリカンスクールを始め、多方面より国際色豊かなお客様が来場され、大盛況となりました。劇団にとって、今回の日本ツアーで最も成功した公演であり、ぜひ来年も来たいとのことでした。また、公演後は、劇団員の学生らが本学学生・教職員宅にホームステイをし、双方にとって有意義な国際交流をはかることができました。



ブライアン山本教授 来学!

2015年5月22日

協定校「カウアイ・コミュニティ・カレッジ（米国ハワイ州：以下カウアイ CC）」より、ブライアン山本教授が来学されました。「ハワイ研修・海外幼児教育研修」の短期研修や、長期留学の折、山本教授は学生に対し、献身的に接して下さっています。

当日は、「カウアイ CC 研修・留学説明会」を実施。留学に関心ある学生と、昼食を共にしながら語りました。短期研修に参加した多くの学生も駆け付け、山本教授との再会を喜び合いました。

続いて中原俊明学長との面会がありました。山本教授と学長は旧知の中であり、思い出話に花が咲き、将来的な



展望についても語られました。最後に本学教職員との懇談会が持たれ、充実した交流となりました。

香港大学の学生来学

2015年6月8日

香港大学の学生サークル「香港大学世界大学服務社」の学生 30 名が来学されました。

当日は、本学講義「アクションリサーチ A（玉城直美講師）」に参加していただき、ワークショップを展開し、在学生とともに、沖縄と香港の紹介や、グループ学習を行いました。その後は学生ユニオン（学食）にてランチタイム。授業で打ち解けた在学生とともに、沖縄そばやカレーを堪能しました。最後に在学生によるキャンパスツアーを実施し、学内を見学しました。リーダーの Lai Chi Ling さんより「素晴らしい交流が実現し、大変嬉しかったです」との感想をいただきました。

全て英語による国際交流であり、在学生にとっても、貴重な体験となりました。



学生支援

ライオンズクラブ国際協会様より 本学外国人留学生へ奨学金贈呈

2015年6月24日

ホテル・ムーンオーシャン宜野湾にて、「在沖縄外国人留学生奨学会」奨学金贈呈式が執り行われました。英語コミュニケーション学科3年次のイ・ケトゥ・スチプタ・アリアンタさん（インドネシア出身）、短大英語科2年次の方淑然さん（香港出身）が奨学生として採用されました。贈呈式にて、理事の皆さまより、外国人留学生への激励メッセージをいただきました。

ライオンズクラブ国際協会様の理念である「奉仕の精神」は、本学の建学の精神と共鳴しています。奨学生として採用された留学生2名がこの栄誉を励みとし、新たな学びのステージへと飛躍していくことを確信しております。

改めまして、今回の奨学金に、心より御礼を申し上げます。



学習支援センター

小論文対策は早めに!

学習支援センターでは、公務員採用二次試験（公立幼稚園等）の小論文試験対策をサポートしております。過去公務員として採用された卒業生も多くおりますが、小論文や面接の準備は長い時間をかけてじっくりやるのが大切です。

小論文は作文能力、面接は話す能力が問われますが、どちらもその基盤として、豊富な知識と、それを基に自分の主張を考え出す能力が極めて重要となってきます。特に、考える能力は、短期間で養成できるものではありませんので、数ヶ月をかけてじっくり身につけていくことが求められます。

小論文を課される公務員や会社への就職を考える学生の皆さん!

どうぞ、余裕をもって、学習支援センターへ相談に来てください。



2015 年度 主な図書館行事

沖縄キリスト教学院図書館では、図書館が主催するフェアやイベントを今年度も数多く開催しました。多くの学生が図書館に足を運んでくれました。

図書館行事

- 4月 ●「就活のヒントを探しに、図書館へ」(春の就活図書フェア)
- 5月 ●絵本フェア
 - 文献検索セミナー
 - ProQuestCentral(電子ジャーナル・データベース)講習会
- 7月 ●「小説嫌いは、もったいない」(夏の小説フェア)
- 10月 ●「本を読んで、わかるコト 動き出して、かわるコト」(秋の就活&留学図書フェア)
- 3年次向け文献検索セミナー



- 11月 ●ビブリオバトル
- 12月 ●クリスマス絵本展
- 1月 ●絵本読み聞かせ講座

図書館イベントセミナー

「第1回ビブリオバトル」

本と出会う場を作りたいとの思いから図書館において、ビブリオバトル(知的書評合戦)を開催しました。「どうして読んでほしいのか。なにが面白いのか。」を語る本の紹介者6名の熱弁に、学生や教職員85名が聞き入りました。ビブリオバトルを観覧した学生たちは、図書館ロビーに展示した紹介本を手に取り気に入った本を借りるなど盛況でした。

*ビブリオバトルとは、読んでおもしろいと思った本を一人5分間で紹介するコミュニケーションゲームで、京都大学から広まりました。本の紹介後に一番読みたかった本に投票し、得票数の多い本がチャンプ本となります。



日 時 2015 年 11 月 26 日(木) 16:30~17:30

場 所 図書館

「第1回絵本読み聞かせ講座」

保育科学生が実習先での“読み聞かせ”や“絵本選び”に悩まないように、読み聞かせの実技研修を開催しました。保育科1年次38名が参加し、手遊びや折り紙などを使った導入方法、読み聞かせの表現方法や絵本のめくり方を学びました。2年次の保育所や幼稚園実習の実習先で、読み聞かせの技を活用しようと真剣に聞き入っていました。

日 時 2016 年 1 月 8 日(金) 13:00~14:30

講 師 平良 京子 氏(沖縄県子どもの本研究会副会長)

場 所 体育館



図書館主催講演会

沖縄キリスト教学院図書館主催講演会「沖縄と憲法」(共催/沖縄キリスト教平和研究所)が開催され、学生や学外から80名ほどの参加がありました。

国会で審議された18歳投票権や安全保障法案などの憲法改正を「沖縄で考える意義」について、講演していただきました。

また、講演会に合わせて関連図書を図書館ロビーに展示しました。



日 時 2015 年 6 月 13 日(土) 14:00~15:30

演 題 「沖縄と憲法」

講 師 小林 武 氏 沖縄大学客員教授(専攻:憲法学)法学博士・弁護士

場 所 SHALOM 会館1-1教室

関連図書展示 2015 年 6 月 8 日(月)~24 日(水)

退職教員メッセージ



あの時の感動をもう一度

英語コミュニケーション学科

教授 伊佐 雅子

沖縄キリスト教学院大学が設置された2004年に赴任して今年で12年目となります。学生に恵まれ、教職員の皆さまには大変お世話になり、充実した教員・研究生活を過ごすことができました。1番の思い出は、2008年の大学完成年度に、大学院異文化コミュニケーション学研究科を、神山繁実学長(=当時)のリーダーシップの下、四大の開設時メンバーと事務部門(=仲門勇市常務理事)とのチームワークで立ち上げました。大学のトップと教職員が一丸となって、何度も会議を重ね、一緒に文科省にも出かけ、わずか2年で実現にこぎつけました。この時の喜びと感動は、今でも鮮明に覚えています。この年の12月に、本学と同じ研究科のある立教大学大学院の鳥飼玖美子教授をお迎えし、第1回の大学院講演会を開催しました。150名以上の方が参加され、これがきっかけとなり、社会人の眞榮城裕さんが大学院に入学されました。大学院も今や8年目となりました。今後は、皆さまの英知と努力で、新たな学院の扉を開いていただきたいと願っています。本学院の益々の発展を祈っております。



第1回大学院講演会(2008年12月)
(中央は鳥飼玖美子教授)



生涯の財産!

短期大学部長

保育科 教授 大山 伸子

2003年4月、幸運にも本短期大学に採用していただきましたが、アツという間の13年間でした。大学教員勤務は、キリ短大や他大学での非常勤講師を含めると38年間で、いわば、下積み。が長かったとも言えますが、この期間がのちのち本短期大学で生かされている、と深く肝に銘じることになりました。

振り返れば、39歳で4歳と10歳の子どもを連れて上京、夫を那覇に残して大学院生となった私でしたが、後に知ったところでは「子連れの大学院生が入学した」と学内で囁かれていたようなが、逆に思いやり深く対応していただいたのでした。

4歳の保育園児の二男が発熱、という知らせが保育園から大学院事務局に電話が入った時など、親身になって子の待つ保育園に送り出して下さったものでした。そういう肌身に即した教育現場体験は、私の教師生活にいくばくかであれ反映していると思っています。

教師の冥利は、学生達の成長に遭遇した時です。「音楽Ⅲ」は選択科目ですが、音楽の好きな学生や、将来保育士を目指して子どもたちと音楽を楽しみたいという学生達が受講しており、集大成として卒業演奏会を開催しています。

ある年、その演奏会に耳の不自由なクラスメートAさんをゲストで迎えたい、と受講生達の強い要望があり、Aさんは、楽器アンサンブルのピアノ演奏を担当。Aさんの演奏のテンポが遅くなると皆が横で拍子を取ったり、Aさんの背中のリズムを叩いたり、と受講生達はさりげなく懸命にフォローして曲は仕上が、本番では見事に完奏。学生達の人間として成長した姿とAさんの達成感あふれる笑顔に私は感銘を受け、教員であることを誇りに思いました。

短期大学部長としての4年間は修行の場ともいえますが、神山理事長、中原学長、与那覇事務局長、保育科の先生方、そして教職員の皆様々に支えていただいた事は、生涯の財産です。本当に有難うございました。

採用教員メッセージ



過去を振り返り、若い世代に継承をする

英語科 特任教授 藤原 幸男

琉球大学教育学部を定年退職後、2015年4月に英語科特任教授に採用されました。

専門は教育方法学です。教育方法は教師のものの見方・考え方・生き方と密接に結びついています。私は、激動の時代の中で教師がどのようにものの見方・考え方・生き方を形成し、どのように教育方法を開発・実践したのか、に着目しています。

沖縄の教育については、日本復帰前の認定講習講師・教育指導員による現職教育、日本復帰後の西原町の学校教育史、沖縄の平和教育史、戦後沖縄の学力問題史など調べてきました。新しい史料に出会い、さまざまな事実を発見する面白さを感じます。そして、沖縄の教師の苦闘に触れ、心を動かされます。若い世代に、先輩教師の頑張りを継承していくことが大切だと考えています。



沖縄に根ざした Art Education Programを!

保育科 講師 佐久本 邦華

2015年10月より保育科の講師に採用されました。よろしくお願いいたします。

保育科では幼児造形表現に関する科目および、実習指導関連の科目を担当します。私の本学での抱負は、沖縄の地域に強く根差した様々な Art Education Program を生み出すことです。子どもたちが沖縄の自然に触れ、先生や仲間と感動をシェアし、学んでいけるようなプログラムを、本学の先生方はじめ、あらゆる年齢を対象とした教育者の方たちと一緒に考えていきたいと思っています。

素晴らしい幼児教育の研究と教育の場を与えて下さった本学に感謝し、本学と、そして沖縄の発展の一翼を担えるよう精いっぱい学び、考え、学生と共に成長していけるよう精進したいと思います。

研究助成費獲得による研究活動

沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学では、外部資金による研究活動が行われています。
2015 年度の獲得結果は次のとおりです。

【ひらめき☆ときめき サイエンス ～ようこそ大学の研究室へ～ KAKENHI】

精神障害者・回復者雇用の重要性

—医療・保健・福祉分野を目指す上で—

(近藤功行 教授／人文学部 英語コミュニケーション学科)



【公益信託 宇流麻学術研究助成基金】

「フィリピンにおける児童養護施設および

マニラ大学との交流事業」

(新垣 誠 教授／人文学部 英語コミュニケーション学科)

教育実習の意義・役割に関する多面的考察

—J-POSTL 言語教師のポートフォリオ (教職課程編) の分析を通して—

(大城直人 准教授／人文学部 英語コミュニケーション学科)

同窓会・後援会の活動

同窓会の会員数は、2015年3月末現在、1万3千名余です。同窓会の目的は会員相互の親睦を図りつつ学院及び在学生を支援することにあります。その一環として、キリ学祭の最終日、「ゆんたく広場」と称して学生ユニオンに同窓生の交流の場を設け、飲み物やお菓子のサービス、過去の卒業アルバムから抜粋した写真の映写、新聞等で掲載された同窓生の活躍の記事を展示しました。お子さんを連れた同窓生がブースに足を運んでくれました。又、同窓会をPR するために同窓会のロゴ入りポロシャツを作製し、評議員が着用してキリ学祭に参加しました。更に名刺やワッペン等を配布しました。作製し

たポロシャツは同窓会HPにてご覧いただけます。販売も致しております。他に継続活動として、奨学金やキリ学祭援助金の授与、新旧学生会役員との懇親会、新入生への記念品や卒業証書ホルダーの贈呈、県外就活の助成等を行っています。今後、同窓会の更なる活性化を目指すために若い会員層の参加がとても重要です。会員の皆様の参画をお待ち致しております。

後援会は、本学院の目的及び事業に協力し、学院の維持発展並びに学生の福祉増進に寄与することを目的に活動していますので、同窓会と連携して事業を進めております。



同窓会・後援会 HP : <http://www.ocjc.ac.jp/dousoukai/index.html>

同窓会
からの
お願い

同窓会では会員名簿の整備を進めています。

①住所 ②氏名 ③電話番号 ④勤務先の変更等をお知らせください。

《連絡先》同窓会事務局

Tel / Fax : 098-946-1280 E-mail : dousoukai@ocjc.ac.jp

寄付感謝報告

寄付へのご協力ありがとうございました。ここに感謝をもってご報告させていただきます。

寄付指定 (2015年1月1日～12月31日まで)

個人 (19件 / ¥5,027,055) 団体 (30件 / ¥12,027,245) 合計 (49件 / ¥17,054,300)

施設設備資金		
父母	1	15,000
同窓 / 在学生	2	539,000
一般	1	1,000,000
団体	4	318,000
宗教	1	3,000
宗教団体	6	224,245
教職員	1	150,000
後援会	1	5,915,000
合計	17	8,164,245

国際交流		
教職員	1	90,000
合計	1	90,000

奨学金		
同窓 / 在学生	1	50,000
企業	9	610,000
団体	2	150,000
宗教団体	2	400,000
学校関係者	2	630,000
教職員	4	910,000
同窓会	1	600,000
後援会	1	3,010,000
合計	22	6,360,000

教育活動		
団体	2	300,000
合計	2	300,000

沖縄キリスト教平和研究所		
一般	1	500,000
宗教	1	50,000
教職員	1	1,050,000
合計	3	1,600,000

学生会活動援助費		
同窓会	1	300,000
後援会	1	200,000
合計	2	500,000

その他		
合計	2	40,055

2015年度 人事

●沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学 学長

【任期満了】(3月31日付け)

・中原 俊明

●教育管理職

【任期】(2017年3月31日まで)

・浜川 仁 教学支援部長(新任)
・上原 明子 学生支援部長(国際平和文化交流センター長兼務)(再任)
・Daniel S. Broudy 大学院異文化コミュニケーション学研究科長(再任)
・Christopher Valvona 英語コミュニケーション学科長(新任)
・作田 真由子 英語科長(再任)
・大城 りえ 保育科長(新任)
・上原 明子 総合教育系主任(新任)
・武村 朝吉 学習支援センター長(再任)

●沖縄キリスト教学院大学

【定年退職】(3月31日付け)

・伊佐 雅子 英語コミュニケーション学科教授

●沖縄キリスト教短期大学

【採用】(4月1日付け)

・藤原 幸男 英語科特任教授
・Michael Bradley 英語科助教(外国人契約教育職員)

【採用】(10月1日付け)

・佐久本 邦華 保育科講師(任期教育職員)

【異動】(4月1日付け)

・上原 明子 総合教育系教授(英語科教授)

【定年退職】(3月31日付け)

・大山 伸子 保育科教授

●事務職員

【昇任】(4月1日付け)

・金城 太 企画推進課主任(企画推進課書記)

【採用】(4月1日付け)

・安田 和枝 財務課(任期事務職員)

【異動】(4月1日付け)

・平良 みどり 企画推進課主任(総務課主任)

・松本 真美 教務課書記(宗教部書記)

【退職】(12月31日付け)

・松本 真美 教務課書記

【任期満了】(3月31日付け)

・与那覇 明弘 事務局長

2014年度決算報告

2014年4月1日～2015年3月31日まで

資金収支計算書

(単位: 円)

資金収入の部		資金支出の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
学生納付金収入	694,384,400	人件費支出	520,139,173
手数料収入	17,651,600	教育研究経費支出	170,566,153
寄付金収入	23,775,012	管理経費支出	36,857,962
補助金収入	131,624,526	借入金等利息支出	2,290,892
資産運用収入	9,073,514	借入金等返済支出	36,200,000
事業収入	4,095,847	施設関係支出	13,888,452
雑収入	8,754,396	設備関係支出	31,564,664
前受金収入	349,799,890	資産運用支出	65,000,000
その他の収入	46,892,017	その他の支出	52,116,089
		予備費	
資金収入調整勘定	△ 336,758,439	資金支出調整勘定	△ 16,558,750
前年度繰越支払資金	1,113,984,906	次年度繰越支払資金	1,151,213,034
収入の部合計	2,063,277,669	支出の部合計	2,063,277,669

貸借対照表

(単位: 円)

資産の部		負債の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
固定資産	3,345,330,635	固定負債	342,867,844
有形固定資産	2,735,880,624	流動負債	415,925,692
土地	943,772,604	負債の部合計	758,793,536
建物	1,116,126,913	第1号 基本金	4,046,484,262
その他の有形固定資産	675,981,107	第2号 基本金	120,000,000
その他の固定資産	609,450,011	第3号 基本金	30,000,000
流動資産	1,160,415,437	第4号 基本金	67,000,000
現金預金	1,151,213,034	基本金の部合計	4,263,484,262
その他の流動資産	9,202,403	消費収支差額の部合計	△ 516,531,726
資産の部合計	4,505,746,072	負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	4,505,746,072

消費収支計算書

(単位: 円)

消費収入の部		消費支出の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
学生納付金	694,384,400	人件費	522,769,242
手数料	17,651,600	教育研究経費	256,551,999
寄付金	24,081,304	管理経費	46,322,129
補助金	131,624,526	借入金等利息	2,290,892
資産運用収入	9,073,514	資産処分差額	4,378,108
事業収入	4,095,847	予備費	
雑収入	8,754,396		
増減収入合計	889,665,587	消費支出の部	832,312,370
基本金組入額	△ 74,243,330	当年度消費支出超過額	16,890,113
		前年度繰越消費支出超過額	499,641,613
消費収入の部合計	815,422,257	翌年度繰越消費支出超過額	516,531,726

2014年度決算について報告いたします。

計算書類は、文部省令「学校法人会計基準」に基づいて作成されており、資金収支計算書は、当該会計年度の研究及びその他諸活動に使用したすべての資金収支の内容等を明らかにしたものです。

消費収支計算書は、当該会計年度の消費収支内容及び均衡の状態を示し、学校法人の経営状態を明らかにしたものです。

貸借対照表は、当該会計年度決算時点における財政状態を明らかにしたものです。

Open Campus 2016

事前申込不要!!

本学のオープンキャンパスは年 3 回。受験をお考えの高校生の方をはじめ、本学にご関心のあるすべての方をお待ちしております。プログラムは「体験授業」はもちろん「AO入試対策講座」、本学教員による「入試個別相談会」など受験生にとって興味深いメニューを取り揃えています。当日は本島内に送迎バスを 6 ルート走らせます。詳細は高校の進路相談室、本学HPもしくは入試課までお問い合わせください。

第 1 回 **6月4日(土)**

13:00 ~ 16:00

第 2 回 **6月25日(土)**

13:00 ~ 16:00

第 3 回 **7月16日(土)**

13:00 ~ 16:00



NEWS

キリ学★キリ短オリジナル
てぬぐいを作りました!



大学見学

ゆっくり、じっくりと本学を味わいたい方に
提供するプログラムです。

個人をはじめ友人のグループ、高校単位とあらゆる人数
に対応可能です。

メニューは事前相談で調整のうえ柔軟に対応いたします。
(例) 本学スタッフによる「施設見学」、「学科説明」、教員による「模擬授業」など

